

秋の小原を満喫 第9回秋の検断屋敷まつり

11月6日、材木岩公園内で「第9回秋の検断屋敷まつり」が行われました。この日は、恒例となった太鼓の演奏やカラオケなどのステージ発表が披露されたほか、リングの皮むき大会、だるま落とし競技、ウッドボウリング大会などが行われ、まつりを楽しむ笑い声に包まれていました。

高橋昶実^{たかはし ちかみ}実行委員長は「東日本大震災により開催が危ぶまれましたが、夏、秋ともにまつりを開催することができました。まつりを通して少しでも勇気と元気を届けることができればと思います」と話していました。



▲ウッドボウリング3位入賞の高橋明日香さん(右から2人目)

みんなでつくろう 安心のまち 青色回転灯自動車による防犯パトロール

10月16日、鎌先地区で住民の自主的な防犯意識を高め、犯罪の発生しにくい社会を作ろうと、青色回転灯を装着した自動車による「防犯パトロール出動式」(主催：鎌先防犯協会)が行われました。この活動は、平成19年から秋の「全国地域安全運動」に合わせて行っているもので、出動式には15人が参加。6台のパトロール車に乗り込み巡回しました。同協会は、このほかにも福岡中PSCパトロールとの連携や車上荒らし撲滅活動など、熱心な防犯活動も行っています。小関憲二^{こせき けんじ}会長は、「安心のまちをみんなでつくりましょう」と話していました。



▲青色防犯パトロールで地域を守っている鎌先防犯協会の皆さん

職人の技で子どもたちの成長を応援 建設職組合青年部の皆さんが施設修繕奉仕作業



▲熟練の技で次々と修理

10月30日、白石市建設職組合青年部^{なかしまひろふみ}(中島裕文青年部長)の皆さんが市内8保育園・2児童館の施設修繕などの奉仕作業を行いました。建設職組合の厚意で30年以上続くこの奉仕作業。今年も材料代や工賃として1万円ずつを各施設に寄付する形で実施されました。

今年の作業には組合青年部の約10人が参加。柵やロッカーなどの難しい修理も、職人にかかれば「あっ」という間にきれいな姿に元通り。修理のほかにも新しい柵の設置や子ども用のベンチ製作なども行い、「職人の技」で子どもたちの健やかな成長を願っていました。

「いかのおすし」を忘れずに 越河保育園防犯教室



▲自分の身を守るための方法楽しく学びました

11月9日、越河保育園の園児を対象にした防犯教室が越河公民館で行われました。白石警察署の署員と白石地区少年補導員協会の皆さんが、知らない人に声を掛けられた時、自分で自分の身を守るための方法などを人形劇やパネルを使って紹介。園児たちは真剣な表情で話を聞いていました。少年補導員協会の方が「身を守るための合言葉『いかのおすし』を覚えましょう」と話すと、園児たちも一緒に「知らない人にはついてい^いかない」「車には^のらない」「^おおごえをだす」「^すぐにげる」「大人に^しらせる」と元気な声で復唱しました。

「笑い」が生み出す・広げる和 女性真打ち桂右團治「独演会」

平成12年に落語芸術協会初の女性真打ちに昇進した桂右團治^{かつら うえだじ}師匠の「独演会」が10月26日、碧水園能楽堂で行われ、約200人の観客を落語の世界に引き込みました。

今回の公演は、早稲田大学卒の右團治師匠と、同大学アジア研究機構の招聘研究員^{しょうへい}で白石高校の昭和47年卒業生である岩間正春^{いわま まさはる}さんとの縁で実現。右團治師匠はこの日、白石高校の開校記念講演会でも落語を行いました。師匠が繰り出す言葉や間、仕草はすべてが絶妙。観客は笑いにあふれるひとときを過ごしました。また、独演会の売上金の一部が白石城復旧のために寄付されました。



▲右團治師匠が持つ扇子は、本物のはしやキセルに見えました

交通安全への思いを描く

大野尚樹^{おの のおき}くん(福岡中)が交通安全ポスターコンクールで最高賞

福岡中3年の大野尚樹^{おの のおき}くんが、「第33回JA共済宮城県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール」の交通安全ポスター部門で、最高賞となる特賞(河北新報社賞)を受賞しました。応募総数855点の中から最高賞の一人に選ばれた大野くん。自転車を運転する人への注意を喚起した作品には、「自転車よ ブレーキかけろ 気にかけてろ」と力強いメッセージが描かれています。今後、大野くんの作品は全国コンクールへと出品されるほか、平成24年1月27日(金)～29日(日)の3日間、宮城県美術館県民ギャラリーで展示される予定です。



▲10月27日、武田教育長に受賞を報告する大野くん(中央)

野球ができる喜びをかみしめて 白石市長杯第10回中学生軟式野球秋季白石大会



▲開会式で力強く選手宣誓する福岡中の清野真司くん

10月15日・16日、「白石市長杯第10回中学生軟式野球秋季白石大会」が益岡公園野球場など4会場で開催され、東北6県から15校が出場し優勝を争いました。本市から白石中、福岡中、東中が出場。白石市民吹奏楽団と白石中吹奏楽部の合同演奏で入場行進が行われ、福岡中主将の清野真司^{せい の しんじ}くんが力強く選手宣誓を行いました。大会は、東中が1年生投手・針生尚弥^{はりう なおや}くんの力投などにより1、2回戦を無失点で勝利。4位と健闘しました。震災以降、練習時間が限られる学校もある中、選手たちは「野球ができる喜び」を感じながら、交流を楽しんでいました。

心に染み入る美声とともに、生と死を見つめる こころの健康づくり講演会



▲心を打つ歌声、静まりかえる会場。いつしか目に涙が…

10月11日、「こころの健康づくり講演会」をホワイトキューブで開催しました。この講演会は、深刻な社会問題となっている自殺問題と、その一因となっている心の病について考えようと、毎年開催しているものです。

今回の講師は、浄土真宗本願寺派教恩寺(奈良県)の第六世住職・やなせななさん。「歌う尼さん」として、全国の寺院などで講演や演奏活動を行っています。この日も、自身が克服した子宮がんの経験や、知人の自殺などについて講演を行いながら、生と死を見つめる歌を披露。その美声に250人の来場者が酔いしれました。